

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590200079		
法人名	医療法人 豊寿会		
事業所名	グループホーム ふれあい園	ユニット名	1号棟
所在地	都城市高崎町東霧島752-3		
自己評価作成日	平成27年6月3日	評価結果市町村受理日	平成27年9月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokonsaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kanistrue&jisyoVoCd=4590200079-00&PrafoCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成27年7月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人が経営母体であるため、医療と介護の側面から、ケアをおこなっている。看護師もいるため、ターミナルケアも行い、開所以来、ほとんどの方を施設で看取っている。医師も週4回以上訪問され、一人ひとりの状況を確認されている。そのことは、入所者自身はもちろん、家族の安心に繋がっている。また、一人ひとりのスキルアップに前向きで、資格取得には手当など支給して、評価している。園の敷地は1000坪以上あり、季節の野菜など収穫して、園の食事に提供している。病院と連携することで医学的情報も入りやすく、眠剤、便秘、その他の薬の情報を正しく知り、適切に医師に状況を報告出来るスキルも向上している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園風景に囲まれ、小高いところに位置したホームは、窓から庭に植えられた花や木々、菜園を眺めることができる。経営母体である医療法人から頻りに医師が訪問し、健康管理や体調不良時の対応、職員への教育・指導などを行っており、日々の生活・家族の安心につながっている。管理者は、利用者の思いを大切に、また、職員一人ひとりが、背景に何があるのか、何を求めているのかを様々な視点から観察し、ケアに生かしていけるようアセスメントや記録の方法を工夫している。さらに結果を出すことで向上心を養い、スキルアップやケアの質の向上に役立っている。運営者と管理者の信頼関係も築かれており、ホーム全体が一丸となってケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	一号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今までは認知症の方々が共同での生活を強いられる中でも自分らしく生きて欲しいといった理念であったが、地域との繋がりを持ちながら、地域の特色を継続していける理念に変更した。しかし、この方々が施設という制限の中で生きていくことは変わらないので、自分らしく生きて欲しいという思いは変わらない。		理念についてミーティングで何度も話し合い、何が大切かを理解し合い、独自の理念を作り上げている。「老いても心豊かに」を根幹に、新しく理念を見直し、現状に合った内容に変更している。職員一人ひとりが意識し、日々のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりが保てるように、民生委員の方やケアマネ会、公民館長、家族の情報に基づき、交流を行えている(年に数回に限られている)。		民生委員が地域とホームとの懸け橋となり、地域行事に参加している。いきいきサロンでは、ホームの実践経験を生かし、認知症や高齢者の疾患についての講演をするなど、暮らしに役立つ活動をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症ケア指導者が在籍しているので、事業所は折ある事に講演など行い、後見人制度や認知症の理解のために地域の集まりで意見交換を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は10年以上の実績が有り、その中で、意見をいただいて活用できる面もあり、理解にも繋がっているが、市町村や地域包括支援センターの意見が少ないなど問題はあある。		会議では、行事報告や案内、日々の取組について話し合い、参加メンバー一人ひとりが評価や意見を出している。ホームの活動として、認知症についての勉強会や講演など、発信できる場所の検討や提案をもらい、実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議やケアマネ会で自施設の考えや相談、研修で発表を行い、空き情報などを伝えることで良い関係ができています		市の担当者が運営推進会議の参加メンバーとなっている。市町村の活動情報や地域の理解を得ることなどについて、いつでも相談できる関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は勉強会でどのような場合が身体拘束になるのか周知を行い、言葉の拘束、精神的拘束などの言葉も勉強して実践し、医療的拘束の場合は契約書などを交えて、家族に承諾してもらってから行っている。		年に1回、身体拘束についての研修に参加し、全職員に伝達講習を行い、理解を深めている。拘束の必要性については職員で話し合い、行動の理由や目的をつかみ、対応の仕方を検討し、拘束しなくても安全に過ごせるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	何が虐待になるのか、どのような場合に虐待になるのか、新人教育を行い、虐待と思わないスタッフに気づきができるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	一号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度は毎年何らかの研修に参加し、家族にも相談される場合は関係機関につないでいる。実際に後見人制度の利用につながった。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には声を出し、全文を読みあげている。疑問にはしっかりと答え、説明を時間かけて行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年一回の家族会を行い、園の事を報告したり、反対に意見を聞いたりしている。また、そのことは運営推進会議で報告会を行い、意見の活用を行い、園の経営に生かしている。	家族会や行事・日々の生活状況の報告等を行うことで来訪の機会をつくり、伝言などで内容が変わらないよう、管理者が直接話を聞いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティング会を行い、全員と話し合う機会を設けている。勉強会や運営に関してみんなが意見を言い合える場を設け、参加者には手当を支給している。	代表者及び管理者、職員は、日頃から意見を言いやすい関係を築いている。職員一人ひとりの生活スタイルを考慮し、勤務形態・体制を配慮するなど、働く意欲の向上やサービスの質の向上につなげている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現実には介護保険改定が有り、非常に厳しいものがあり、手当金などで対応しているが、労働条件は他のところを常にリサーチしている。また、資格などを取得した場合は、手当などを支給している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は年単位で計画を行い、参加させている。また、研修費は施設の負担としている。また、半年にわたるケアマネジメント研修にも交代で参加させている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	リーダー研修の実習生の受け入れや同業者との交流会を行い、他の施設との交流会も行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	一号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族との信頼関係を得るために、毎月手紙を書き、口頭で誤解などないようにしている。また、社会福祉協議会のケアマネージャーや居宅のケアマネージャーなど連絡して、互いに情報交換して家族のサポート体制をとっている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いに応えられるように連絡体制をとっているが、中には配偶者が高齢で、若干認知症のケースなどもあるので、困難事例などを地域包括支援センターに相談しながら、対処しているケースもあるが、家族の思いを聞くようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の思いを知り、家族が遠方で困る買い物などの便宜や病院受診などの便宜を図り、家族の実情に照らして、支援できる事は十分に支援できるようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の気持ちをひもとく為の研修を行って、認知症の人の内面を理解できるように努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族との連絡や新聞などで、園の問題点なども公表しつつ、知らせることで、園で過ごされている入所者の支援をしていく関係を家族との信頼関係の中で構築している。退所後も関係を継続している家族もいる。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠い方もいるが、近くの行事などへ参加する事で、知り合いに遭遇されることもあり、祭りなどの行事は、近くの人の来園が有り、楽しみの一つになっている。	本人がこれまでかかわってきた人々や思い出をアルバムにし、懐かしむことができるよう支援したり、利用者大切に思う人の来訪をかなえるために家族に状況を説明し、理解・協力を得て実現している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う関係を作れるように、スタッフから話題を提供したり、ゲームなどに参加をうながしている。できる事を中心に行っているが、混乱のある人の交流は難しい面もあるが、スタッフが関わり、支えていけるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	一号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後には、すぐに支援ができ、ケアに困らないように、アセスメントに詳しく記入している。また、入所先に面会にも行ったりして、相談に応じている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	都城の実践者ケアマネジメントに毎年交互に参加させ、センター方式を使い、本人の希望や本意が理解できるようにしている。また、ミーティングでも検討して、みんなが同じに支援できるようにしている。	日々の会話や行動、家族からの情報提供を基に、思いや意向の把握に努めている。また、センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)を独自に改良した様式で、背景に潜むものや思いを探求し、どのように過ごすことが最良なのかを検討し、利用者が得意なことや持てる力を発揮できるよう支援しているが、作業がマンネリ化し、喜びや意欲への働きかけが減少している。		一日をどう過ごすかを模索し、役割や出番づくりなどで生き生きとした暮らしの支援につながることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使い、アセスメントを行い、経過や把握に努めたり、入所前のケアマネジャーからも情報を入手して、把握している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の流れの中で、一緒に過ごす時間や一人で過ごす時間を把握している。一人の時間も大切に、集団で生活するストレスが溜まらないように支援できるよう、情報を共有している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランをたてる時は、スタッフとともに意見交換を行い、また、家族の思いも集約し、本人の暮らしの中で解決を図る問題をケアプランの中に反映させている。	担当者会議は家族・全職員が参加し、暮らしやケアの在り方について話し合い、ケアプランを作成している。毎月、ケアプラン実施表で達成度をチェックし、モニタリングしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録には、本人の言動や行動を記録するだけでなく、スタッフ自身がどのような事で、その言動や行動が生じているのか考えられることも記入して、把握に努めている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療の面では、歯科受診の支援や後見人制度の利用に繋げたり、家族の経済面の相談にのるなど、生活保護の支援にも繋げている。			

自己	外部	項目	自己評価	一号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通して意見を拾い、地域の多くの情報を把握して、入所者が豊かな生活が送れるようにしており、地域包括支援センターや役場などの支援ももらいながら、地域の方々ととも家族を通して交流を行い、支えてもらっている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の経営母体が医療法人なので、かかりつけ医を行っているが、家族の希望を取り入れ、家族が希望する医師の受診もできるように支援している。医師も、必要時には他の病院紹介も行っている。	本人・家族の希望で、これまでのかかりつけ医を継続することもできる。日常的な状態の把握や緊急時の対応、適切な医療・入院・紹介がスムーズに行えることから、ホームの協力医に変更する方も多い。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は毎日の異常を医師と連携して、健康管理に努めている。また、休みの時もあるので、異常時の見分け方などの講義を行い、適切に医療を受けられるようにしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はできる限り混乱が起きないように、入院先に園でのことのアセスメント表の提供を行い、連絡体勢をとり、本人や家族が安心していけるように相談に応じている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期には家族の意見の反映を行い、医師によるムンテラを行い、十分な意向把握に努め、園での希望にはできる事、できない事を伝え、家族が十分な情報に基づき判断できるように支援して、後悔のないよう終末期を迎えられるようにしている。	終末期や看取りについては、契約時に説明し、確認している。希望されるときは指針の説明やできること・できないことを明確にし、十分に理解したうえで支援に取り組んでいる。状態に応じて、その都度説明や確認を行い、納得した最期を迎えられるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人が入職した場合など、定期的に応急手当や蘇生法などの訓練を定期的に行っている。また、一人ひとりの病歴についても知る機会を設けている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	家族会の時など避難訓練を行い、年二回の消防訓練を行っている。利用者が避難できる駐車場の確保も行い、消火器の点検も法令に従い、点検している。訓練は、一回は夜間訓練で行っている。	家族や民生委員も参加し、年に2回、消防訓練を行っている。夜間想定は実際に夜間帯に行い、現実味のある訓練となっている。災害時は、ホームの倉庫が頑丈な作りのためシェルター代わりにする。備品の点検や非常食料の蓄えもある。		

自己	外部	項目	自己評価	一号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	管理者はもちろん、職員にも接遇マナーの研修に行かせて、介護施設における人への人格の尊重などについて学ばせている。尊敬語での会話をやっている。		利用者一人ひとりを尊重し、言葉の内容や語調等が不適切にならないよう心掛けている。利用者の性格や状況・ニーズに応じて、親しみやすい言葉かけをすることもある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様が意思に基づいて行動できるような関係作りをスタッフ共々行い、一人ひとりの気持ちに寄り添い、生活の中で自己決定出来るようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴などは一定時間が決まっているが、特に本人の希望に沿って柔軟に対応している。ご本人様がそれぞれの時間を過ごせるように声かけはしているが、強制は行っていない。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様が希望される場合は美容院を利用してもらっている。希望される時は園でも行っている。毎日化粧をして過ごす環境を提供している。洋服などをハンガーに掛け、自分で選べるように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は毎食園で作るが、時には外食を楽しんだり、弁当を購入したり、一緒に食を楽しむ事を心がけている。入所者もできる事をしてもらいながら食事作りをしている。		年間を通して菜園で野菜を作り、種まきから収穫までの過程を楽しみ、調理している。職員は、利用者一人ひとりのできる力を生かし、テーブル拭きや下膳、食器洗いなどを手伝ってもらっている。弁当を作り、庭で食事を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事量は排泄とも関係するので、一回一回記録を行い、不足する場合は、コーヒー、ジュース、ヤクルト、紅茶など、本人の好みを取り入れることで改善を行っている。異常が見られる場合は、医師への連携を図り、早めに改善を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは食後には必ず行っている。自分で出来ない人のために、口腔ケアに必要なものを揃えている。また、口腔ケアの研修にも参加して、口腔ケアの重要性を職員にも伝えていく。			

自己	外部	項目	自己評価	一号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの対応として、昼間はできる限りおむつを外し、夜間は誘導を行っており、おむつも個人の排泄のパターンを把握して、適切な吸収量を検討して使用している。そのことが失敗を防止できている。	排せつパターンや習慣・量などをチェックし、適切な誘導を行い、失敗を減らす工夫をしている。布パンツに移行できた事例もある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録をしっかりと記録することで、排便に対する働きかけを行っている。水分量、乳製品、発酵食品提供などを提供しているが、困難な場合は、看護師による摘便も行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は二棟あるため、入浴日を交互にすることで、入浴の機会を逃しても入浴ができるようにしている。入りたくない理由を考えて、本人が入りたくないためにはどうしたらいいのか検討を行い、時間に縛られないようにしている。	週3回は入浴できるよう支援している。2ユニットであることを利用し、交互に入浴日を設定し、いつでも入浴ができるようにしている。本人が入りたくなった時は、いつでも入浴できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握して、昼間の状況が夜間に与える影響を考え、運動や布団を干したり、環境を整え、リズムを重視している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は飲ませる事に目を向けがちではあるが、しっかりと副作用がないかを見極める事にも視点を置き、服薬管理を行っている。また、現場で判断すべきこともあるので、常に医師との連携を図っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月の行事を年間で計画している。外食や遠足、花見、交流会などを通して、気分転換を図ることを月単位で行っている。また、町内の行事などへも参加して、交流を行っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	園内が広いので、外への散歩や外出を行っているが、本人が買い物など希望する時は、一緒に行くようにしている。桜の花やツツジの咲く季節に戸外に出掛けている。また、墓参りや神社などへ連れて行くこともある。	ホームの庭や菜園に、日光浴を兼ねて日常的に出ている。本人の希望で近くのスーパーや墓参りに出掛けることもある。季節ごとに花見や公園へピクニックに出掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	一号棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は非常に問題のあることなので家族とも話し合い、あまり大金にならないようお願いをしている。所持は本人の管理に任せている。使う機会もあるが、他の持たない人へ配慮しながら、個人対応で使用していただいている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人が希望している場合は何回でもさせているが、自由にさせていることで、仕事に支障が出る場合もある。手紙は難しい。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を飾り、来園者にも心地よい空間を提供して、室内にも花も飾っている。毎月季節を感じられるように、季節のわかるような飾りつけも行っている。	利用者が個々に居心地良い場所を見つけ、くつろげるよう支援している。移動の導線にはちょうど良い間隔で休憩できるよう椅子がさりげなく配置されている。花やすだれ、みんなで制作した作品などで季節感や楽しさを演出している。明るさや温度調整も適度に行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった場所の確保として、ソファの確保を行い、環境の勉強会も行い、環境が認知症の人に及ぼす影響を考え、色々な視覚なども考慮して、本人が気持ちが落ち着く環境の取り組みを行っている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物の提供を家族に依頼しているが、家族の対応は様々なところはあるが、そこで終わりではなく、常に働きかけ、一人の空間が居心地の良い空間となるようにしている。鍵はないが、プライバシーの確保も行っている。	居室には、その人のなじみのものやその人らしい物が置いてあり、安心して過ごせる空間づくりをしている。居室にいない時は換気をし、心地よく過ごせるよう環境を整えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部ばかりでなく、外部の敷地を自由に歩けるようにして、小さな畑や散歩コースがある環境とともに、室内においては、床の見直しやタンスの位置の環境に気を配っている。			